

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200447
法人名	株式会社健美福祉会
事業所名	グループホーム はなみずき
所在地	富山県高岡市中曽根500
自己評価作成日	令和5年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念にもある「笑って共に楽しく生きる」を念頭に置き入居者、職員共に笑って笑顔で過ごせるよう朝の挨拶から、笑顔で接するように心がけている。一人ひとり特技や苦手なことがあり、得意な事は生かし苦手な事は協力するというスタイルを続けている。レクレーションや日々の活動の際にも、その点を生かしながら理念に近づくよう取り組んでいる。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の理念『笑って共に楽しく生きる』のもと、利用者と職員が共に笑顔で楽しく過ごせるよう心掛けている。コロナ禍の中でも牧野公民館祭りへ利用者が作成した作品等を出展し、地域との交流継続を図るよう努力している。積極的な地域交流は9月後半から再開する予定である。天気の良い日には畑や近所の公園まで散歩に出掛けたり、戸出の七夕や獅子舞を見にドライブに出掛けるなどの取り組みを行っている。今後は月1回程度の外出支援を積極的に実施することを目指している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和5年9月19日	評価結果市町村受理日	令和5年12月7日

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の掲げた理念を個々に把握し、笑顔で楽しく生活出来るようなサービスを提供できるよう努めている。	立ち上げ時に管理者が作成した理念『笑って共に楽しく生きる』のもと、日頃から利用者と職員と一緒に笑顔で過ごせるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、地域交流は出来ていないが、ヘアカットのサロンを利用したり、地域の祭り行事に参加したり、避難訓練時に近くの医療機関に見守り、避難場所の提供をお願いしている。	地域との交流はコロナ禍のため、実施していなかったが、9月後半から再開する予定である。牧野公民館祭りでは、利用者が作成した作品展示を行い、コロナ禍であっても地域との交流を図るよう努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防支援事業「お喜楽サロンよらんまいけ」を地域の方々と協力しながら送迎、アドバイス等の支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為会議は、行えていないが書面にて報告している。	コロナ禍のため、対面での開催は控えていたが9月28日に再開し、地域との交流等を呼びかける予定にしている。書面開催の議事録については、市役所・地域包括支援センター・自治会長・民生委員・家族代表に送付している。	利用状況や活動報告等を記載した議事録を全家族の方にも配布する等、事業所の積極的な活動状況を発信できるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問、困ったことがあれば、担当者と連絡を取り、確認をしている。	市町村との連携については主に電話やメールでのやり取りではあるが、困難事例等があれば相談を行うため窓口に向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会やカンファレンスを通じて定期的に言葉やベッド柵などの身体拘束しないケアに取り組む確認をしている。	『身体拘束等の廃止マニュアル』を基に、身体拘束委員会(構成メンバー:管理者・リーダー・ケアマネジャー・看護師)を3か月に1度開催、年2回研修を実施することで身体拘束をしないケアについて情報共有している。また、日常生活の中でスピーチロック等の不適切な言動が見られた際は、その都度管理者やリーダーが中心となって指導・注意喚起している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	日常生活で入浴時、トイレにて身体の状態など確認したり、職員間で注意しながらケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方はいないが、家族と必要性について確認し、活用できることを伝えている。日常生活自立支援事業について学ぶ機会をもっていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、書類を通じて十分な説明をし、理解を得ている。改定がある際は事前に書面や口頭にて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には日々の関りの中で困っていることはないか、要望がないかを聞いている。ご家族様には面会時など来所時に要望や気になっていることがないか伝えている。	家族とは主にケアマネジャーを通してメッセージアプリで繋がっており、日常的に意見交換を行い、夜間であっても返答が必ず頂けるようになっている。頂いた意見や要望等は職員間で共有し、日々の実践に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやミーティングで意見を聞いている。その都度相談できる機会がある。	事業所独自の人事考課表を基に、年度末に本部長と管理者で面談を行い、意見や提案については運営に反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間など、個々に合った勤務体制になっており、年度末には勤務内容の評価制度もありやりがいにつながっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修に参加することはなかったが、オンライン研修に参加し研修報告書を通じて研修内容を伝え、より良いケアのサービスに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流する機会は少なかったが、介護予防事業の「よらんまいけ」を通じて地域包括支援センターや他の事業所と協力しネットワーク作りを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の生活状況、性格、習慣などの情報を把握するためセンター方式を一部家族に記入してもらい、入所前と大きく変わらないよう少しでも安心してサービスをうけてもらえるよう、話を聞く時間を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望を聞き、不安を少しでも和らげるよう、良い関係作りができるよう努め、家族の思いを職員間で把握しカンファレンスで情報提供している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が不安に思っている事を聞き、不安を取り除き柔軟なサービスを行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで行ってきた家事などを一緒に行うことで現在の機能を活かしている。毎日行う事で自分の役割としての認識をもち、協力することで共に生活している意識づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所された際に施設での様子を話し、困っていることがあれば一緒に考え、受診時の際に協力していただいたり、必要な物の準備、購入等を依頼する事で家族、職員が協力していく意識づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みのある美容院や病院との関係を継続できるよう努めている。会話の中でも名前、場所などを共有出来るよう記録し次の会話に繋がるように努めている。	家族の協力のもと、馴染みの美容院に出掛ける方が3名いる。コロナ禍の中でも感染対策を行って、近所のスーパーやドラッグストアへの買い物に出掛ける努力をしている。新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことで、今後は積極的に馴染みの人や場所との関係継続を図っていく予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日全員で体操や歩行訓練を行っている。余暇活動には、生活リハビリ、レクリエーション活動などお互い交流を深めあえるよう職員が間に入り、孤立しないよう環境作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談を受けた際は、出来る限り相談に乗り支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の行動や会話の中で思いをくみとれるよう気にかけて会話するよう努めている。困難時はその行動を理解できるよう努めているが、必要なケアまでは行っていない。	センター方式のアセスメントシートを使用し、入所時に家族から本人の暮らしの情報、思いや希望等の把握に努めている。コミュニケーションを取れる利用者からは日々の生活の中の会話や表情から思いを把握し、介護記録に記載して情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にサービス事業者からの情報収集を行い、把握に努め、入所前、家族にセンター方式の1部を記入してもらった情報を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の表情や行動、発言を観察し、日々の様子を介護日誌に記録し生活パターンの把握に努めている。また、カンファレンスを定期的に行い現状の問題、改善したことを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に、カンファレンスを行っている。職員一人一人の意見を反映し、色々な意見の中から本人にとって何が1番大切かを考えプランに反映している。	ほぼ全ての職員が1~2名の担当制を設け、担当者がモニタリングを行っている。月1回行われるカンファレンスで状態の変化について話し合い、介護計画の変更に生かしている。職員全員が事前に、カンファレンスで利用者に関して検討してほしいことを書面で提出し、チームで介護計画を作成することを意識して取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務前に申し送り、日々の記録や申し送りノートで情報共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の病院の受診や、買い物など家族がいない場合は職員がつきそいで対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の必要な消耗品と一緒に、近くのドラッグストアに買い物に行っている。 地域の病院を協力医とし、体調不良時には来所し診察を行ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望しているかかりつけ病院には事業所の様子が分かるように手紙で様子を伝えている。 訪問診察を受けている協力医とは常に状況を報告し、不調時には往診、又は受診し必要な医療が受けられるよう支援している。	18名中4名はかかりつけ医に通い、他の方は3か月に1回定期で協力医の往診がある。かかりつけ医に家族と一緒に受診に行く際は、管理者と看護師が作成した手紙を渡し、適切な医療が受けられるよう工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化や、気づきを記録に残し看護師に伝えている。その情報を見て看護師の視点で処置や受診の必要性を思案し指示をもらい介護との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、電話連絡などで情報を提供している。入院中も病院に電話連絡し状況報告を受けている。必要時、退院時、カンファレンスを行い状況把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、終末期に対応について説明し意向を聞いている。入院時などに、状態の変化が見られた際には、本人、家族の意向を確認し、医療機関には事業所として出来ることを伝え、本人、家族と今後の方向性について一緒に考えている。	『看取り対応指針』を作成し、契約時に終末期の対応について家族に説明している。改めて看取りに入った段階で、本人と家族の意向・主治医の判断に基づいて看取り対応を行っている。	看取り対応のもと、今後は加算を取得できるような体制を整備されることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について、出来る職員も増えてきたが、職員全体が慌てずに行える実践力は身につけていない。研修などを行い症状に応じて必要な対応が出来る実践力を身につけていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いの元、年2回の避難訓練を実施している。火災だけでなく、水害についてのマニュアルを作成し、自分の役割を理解できるように、研修を行っている。	令和4年12月に作成した災害時の避難確保計画を町内会長や民生委員に渡しているが、地域の方の協力を得ての訓練の実施には至っていない。11月に水害対策として避難場所の保育園までの避難訓練を実施予定である。	利用者の命を守ることを最優先とし、状況によっては事業所の2階へ垂直避難できるように関係機関等との協議の準備をすることに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いの言葉や、強い口調にならないよう、注意している。何事も否定せず関わりを持つようにしている。生活の中でのプライバシーに配慮しながらケアを行っている。	言葉遣いやスピーチロック等、気になることがあれば、管理者やリーダーがその都度アドバイスや指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望にそえるよう、表情や言動を観察するように努めている。本人が選択できるような声掛けをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の今までの生活パターンや、その時の希望に合わせて、その人らしく生活できるように支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣する際には一緒に服を選んだり、入れ替え時は、新しいものではなく今まで着ていた服を持って来てもらえるよう伝えている。美容師に本人の好みの髪型にしてもらえるよう伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みや食べやすさを考え食器や食事形態、盛り付けを工夫している。入居者の能力に合わせ配膳、下膳を手伝ってもらっている。	食材は業者から仕入れ、メニュー表を基に食事を作って提供している。また、行事食として、誕生会にはフルーツケーキ・土用の丑の日には鰻を提供したり、利用者の希望を考慮して手作りのメロンソーダやかき氷・冷やし中華を食べることで、コロナ禍の中でも作る楽しみや食べる楽しみが得られるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量や形態を本人の摂取状況を確認しながら、その都度検討している。水分摂取量が少ない方には好みの飲み物を提供したり、少量ずつ提供したり、嚥下能力に応じて水分にトロミなどを使用し工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、できないところは職員が支援している。一人一人に合わせた口腔ケア用品を使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	管理票に排泄状況を記入し一人一人に合ったパターンでトイレ誘導を行い、尿意や便意がある時の、サインを見逃さないようにしている。	利用者の排泄パターンや残存機能を把握し、さりげない介助や穏やかな声掛け等を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、水分補給を多めにとってもらったり、オリゴ糖やホームで作ったヨーグルトを食べてもらい自然排便に努めている。便秘が続くようなら主治医に相談し、下剤の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合ったタイミングで入浴できるよう声掛け支援している。湯温を本人の好みに合わせたり、入浴剤を使用したりし、気持ちよく入浴できるように努めている。	週2回を目安に本人の希望や状態に応じて入浴日の変更やシャワー浴で対応する等、臨機応変に対応している。浴槽の手摺りからロープを繋げたことで立ち上がりやすいよう配慮がされている。また、季節に応じた入浴剤を湯舟に入れることで入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所時に生活状況等を聞き、安心できるよう家具の配置を工夫したり、本人が休みたいと言われた際は居室にて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに薬情をファイルし全職員が把握できるようにし、投薬時には二重確認している。症状の変化は記録に残し申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割を一人一人の能力を活かし、他者と協力して行っている。以前は面会時に本人の好きな食べ物を持ってきてもらい一緒に食べてもらっていたが、コロナ禍になってからは行っていない。天気の良い日には散歩などに出かけ気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は家族さんと外食や買い物に行っていたが、コロナ禍になって行っていなかったが、最近では、会食なしの外出に関しては本人、家族の希望があれば外出している。 本人が希望された時や晴れている時には外の畑や近所の公園などに出かけたり、お花見ドライブ、祭りドライブも実施している。	天気の良い日に畑や近所の公園まで散歩に出掛けたり、気分転換に戸外の七夕や獅子舞を見に行ったり、花見等のドライブに出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人持ちの財布は事務所にて預かっており、本人の欲しい物がある時に購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は電話で会話をしている。手紙のやり取りは自由に行っており、年賀状を書いたり、大切な方とつながりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃し、清潔を保ち、季節感を感じられる、壁飾りを作成したりしている。 共有の空間にはソファを配置したり、エアコンにて適度な温度調整を行っている。	敷地内の畑で、ナス・きゅうり・トマト・さつまいも等を栽培できる環境にあり、共有空間は光や音等が利用者にとって不快にならないよう配慮され、食事に集中できる工夫がされていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やソファにて、テレビを見たり自分思いに過ごせる空間がある。 年齢や生活歴をもとに座席の配置を考え、トラブルがないよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家で使用していた、毛布や枕など持って来てもらったり安心できるよう、家族写真などを置き、担当職員で整理をして居心地のよい部屋になるよう努めている。	各居室の入り口には暖簾が掛けてありプライバシーに配慮されている。居室には筆筒とベッドが配置されており、テレビや家族との思い出の写真・作成された装飾等が掲示され、一人ひとりに合わせた居心地の良さに配慮した居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室、トイレに手すりを設置し、見守りのもと利用者が移動できるようにしている。 車椅子の利用者が移動しやすいよう環境整備している。トイレや居室の場所が分かるように掲示している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム はなみずき

作成日: 令和 5年 10月 29日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナの影響にて対面での会議を控えており、家族様全体には書面での報告を行っていなかった。	対面での会議の再開に向け、市役所・地域包括支援センター・自治会長・民生委員・家族代表に働きかける。	9月より、対面での会議を再開し、議事録を全家族の方にも配布する。	2ヶ月
2	35	他の場所へ避難するリスクより、施設2階への垂直避難の方がリスクが少ないと思われる。	避難計画を見直し、関係機関と協議を行う。	11月の避難訓練時、関係機関と協議を行う。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()